

機能と用途ですべてが決まる

Photo : Nakamura Tohru

Thinサーバー 導入ガイド

WWWサーバーや電子メールサーバーといった、インターネットで一般的な機能をあらかじめ搭載済みのサーバー製品が続々と登場している。これらはThin(シン)サーバーと呼ばれ、管理者がいなくても、また、専門的な知識がなくても、WWWサーバーや電子メールサーバーを導入して運用できるようにすることを目的として開発されている。今回は、Thinサーバーを導入するメリットはどこにあるのか、実際に購入する際の検討すべきポイントはどこかといったことを含めて、各製品をレビューする。

石川和也

電源を入れたら すぐに使えるサーバー製品

自社のWWWサーバーを公開したり、社内の情報共有のためにイントラネットを構築したり、サーバーの設定という技術的な壁と運用管理という実務的な壁のために躊躇することが多い。

情報を公開するためには、インターネットに接続して、さらにWWWサーバーや電子メールサーバー、不正アクセスを防止するためのファイアウォールといった、各種のサーバー環境を構築する必要がある。また、これらの環境は構築するだけでなく、日々の管理を行わなければならない。今までこの運用管理には、専門的な知識が必要とされてきた。このような

理由から、特定の管理者を置けないISOHO環境などでは、プロバイダーが提供するホスティングサービスを利用しているところも多い。

しかし、昨年くらいからインターネット/イントラネットサーバーに必要なWWW、DNS、電子メールといったサービスをあらかじめ1つのパッケージにしたThinサーバーと呼ばれるサーバー製品が登場してきた。これらの製品は、すぐに使えるような状態でユーザーに提供され、設定と運用の手間を軽減してくれる。また、Thinサーバーはユーザーが電源を入れるだけで何らかのサービスを使うようになっているのだ。



インターネットに特化したThinサーバー

Thinサーバーは比較的新しいカテゴリーの製品なので、あまり馴染みのない人もいるだろう。そこで、ここではまずThinサーバーとはどんなものなのか、Thinサーバーを導入すると何ができるのかといった基本的なことについて解説しよう。

1つの機能に特化

Thinサーバーの語源となっている「thin」(シン)は、英語で「薄い」もしくは「細い」といった意味を持つ。これまでのサーバー機は、機能をどんどん詰め込んでいったために単純な機能を利用する場合でもOSやネットワーク、各種のサーバーの設定など、さまざまな専門知識が必要となってしまった。つまり太って(fat = ファット)しまったのだ。

そこで、ある機能だけに特化させることでダイエットさせ、誰にでも手軽にその機能を利用できるようにしたサーバー機をThinサーバーと名付けたのだ。今回取り上げているThinサーバーは、その中でもインターネットサービスに特化したものになる。

管理の手間を最小限に

自社のホームページを公開する方法としては、プロバイダーが提供しているホスティングサービスを利用するケースが一般的になっている。しかし、ハードディスクの容量やCGIの利用などに制限がある場合が多く、自由に使うには不便なこともあった。また、プロバイダー側で用意された電子メールサーバーを利用すると、メールアカウント数を簡単に増やせなかったり、ユーザーの追加と削除などの作業をプロバイダーに依頼しなければならなかったりと、手間は省けるが柔軟性に欠けていた。

Thinサーバーはプロバイダーのホスティングサービスを利用するよりも管理の手間はかかるが、それを最小限にする工夫がなされている。Thinサーバーはホスティングサービスを補完する選択肢としての役割も果たしているのだ。

システムの立ち上げには最適

Thinサーバーは、コピー機を使うくらいの簡単な操作でインターネットサービスを開始でき

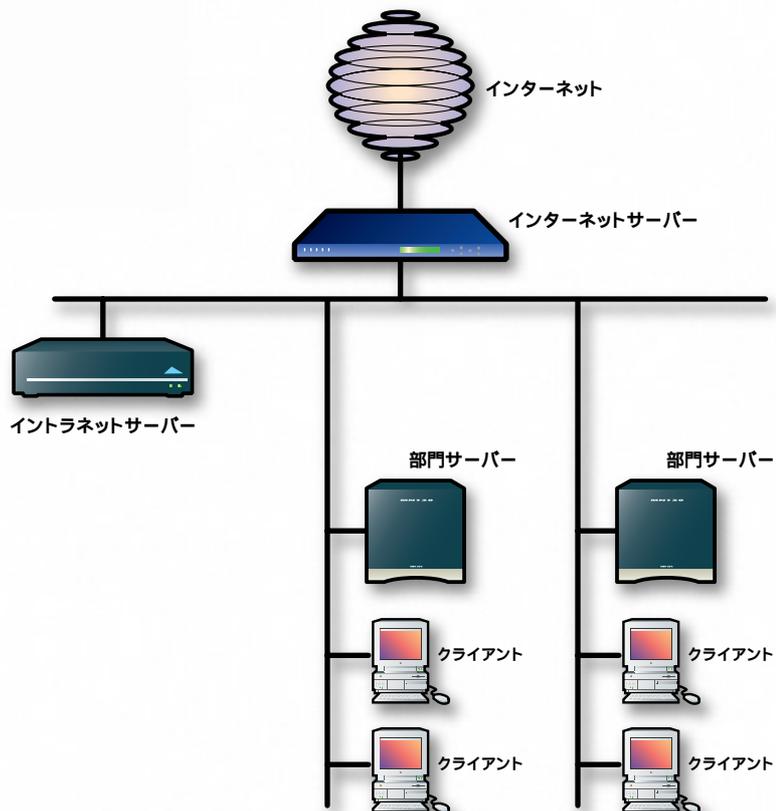
ることを目的としている。もちろん、いきなり大規模なシステムを構築して運用することは難しいが、特定の管理者を置けないISOHO環境くらいならThinサーバーを利用することで自社サーバーの構築が簡単にできるようになる。インターネットを活用することは、見るだけでなく利用することだと言われている。小さく始めて少しずつ段階を追ってインターネットを活用していくのにThinサーバーはもってこいの製品なのだ。

Thinといっても安くはない

Thinサーバーの価格帯は、Thinという言葉のイメージに反して一般的なパソコンよりも高価であることが多い。しかし、WWWや電子

メールといった毎日利用されるサーバー機の場合には、単純に本体の価格だけで選択することは避けたい方がいい。このようなサーバーを利用するためには、サービスを利用し始めるための費用(= 導入コスト)と、それを利用し続けるための費用(= 運用コスト)までをトータルに考える必要がある。PCサーバーのように管理するために特別な知識が要求される場合には、それだけ人件費が(専任の管理者でないとしても)発生してしまう。このような運用コストはサービス導入後からずっと発生し続けるために、導入時に一時的に発生する導入コストをはるかに上回る金額になってしまうのだ。このため、サーバー機の導入を検討するときは、本体価格だけでなく運用費まで含めたトータルな費用で比較することが必須だ。

さまざまな用途に特化したThinサーバー





用途を絞ってサポートをチェック!

Thinサーバーはある目的に特化した機能を提供するために、まず、どのような用途に利用するかを明確にしなければならぬ。また、単に製品購入時の価格だけでなく、Thinサーバーの特徴でもある運用コストについても検討する必要がある。ここでは、インターネットサービスを提供するThinサーバーについて選択のポイントを挙げてみる。



サービス & ハードウェア

まず、特定のサーバー機能を提供するThinサーバーを比較する際には、導入の目的を明確にするとともに、現状のネットワーク環境に合った機種を選択する必要がある。Thinサーバーの利用分野は大きく次の3つに分けられる。

・インターネットサーバー

特にOCNエコノミーやDIONスタンダードなどを利用した専用線接続を考えているSOHOユーザーの場合、ゼロからインターネットを始めるのであれば、ホイッスルコミュニケーションズ社の「InterJet」やフリーゲート社の「One Gate 150」のようなインターネット接続に必要なWANインターフェイスが内蔵されているタイプがおすすめです。ただし、どのWANインタ

ーフェイスを選択すればよいかは、プロバイダーによって異なるので前もって確認しておこう。

インターネット接続に必要なDNSはすべての機種でサポートされているので問題はない。ただ、プロバイダーから指定されたIPアドレスなどのネットワーク設定は、間違えやすく、しかも誤った設定をしてしまうと重大なトラブルを引き起こしてしまうので、自信のないユーザーはメーカー(販売店)側ですべての設定を行ってくれるサービスを利用するとよいだろう。

さらに、不正に侵入されることを防止してくれるファイアウォール機能があると便利だが、細かな設定には専門的な知識も要求される。そこで、ホイッスルコミュニケーションズ社の「InterJet」やインフォーエスの「iStation」のような特別な操作をしなくても利用できるNATやIPマスクレードといったアドレス変換機能を持った製品を選ぼう。

・イントラネットサーバー

イントラネットサーバーとして導入する場合は、既存のネットワーク環境との整合性が重視されるので、WANインターフェイスの有無は気にしなくてもよい。

SOHO環境では、安価なダイアルアップルーターなどの普及により、すでにIPアドレスの割り当てにDHCPサーバーを利用している場合もあるだろう。このような場合は、コバルトネットワーク社の「CobaltQube」のようなDHCPクライアント機能をサポートした機種を選ぶことで、IPアドレスなどのネットワーク設定はほとんど必要なくなる。もし、まだDHCPサーバーを利用していないのであれば、エイベックス・テクノロジー社の「TEAM Internet」のようなDHCPサーバー機能を持った機種を選択しておこう。

これまでダイアルアップIP接続だったが、OCNエコノミーやDIONスタンダードなどの常

Product Showcase

	製品名	価格	HDD容量	メモリー	WAN	LAN	DHCP	DNS	WWW(CGI)
	Cobalt Qube 2700J	248,000円	2.1GB	16MB	なし	10BASE-T x 1	クライアント	プライマリ セカンダリー	個人 CGI(Perl)
	InterJet	オープンブライス	2GB	16MB	モデム/TA用シリアルポート IP接続	10BASE-T x 2	サーバー	プライマリ セカンダリー	公開、内部、個人
	TEAM Internet III	414,000円	2.1GB	16MB	オプション(33.6K ~ 128Kbps)	10/100BASE-T x 1 10BASE-T x 1	サーバー、 クライアント	プロバイダー を利用	公開 URLフィルタリング CGI/SSI
	OneGate150	680,000円	2.1GB	16MB	ISDN/デジタル専用線	10/100BASE-T x 1	サーバー、 クライアント	プライマリ セカンダリー	公開、内部、個人
	Cobalt RaQ	278,000円	3.2GB	16MB	なし	10/100BASE-T x 1	クライアント	プライマリ セカンダリー	公開(マルチドメイン) 個人、CGI(Perl)
	EasyServer GP-2000	550,000円	2GB	64MB	なし (ダイアルアップルーターを使用)	10BASE-T x 1	サーバー (起動時は無効)	プロバイダー を利用	公開、個人
	iStation	オープンブライス	4.1GB (ミラー)	64MB	ISDN(DSU内蔵)	10BASE-T x 4	サーバー	プライマリ セカンダリー	公開

DNSの標準設定で、サーバー本体のみでDNS情報を提供せず、プロバイダーが提供しているDNSサーバーへリクエストを転送する機種についてはDNSタイプを「プロバイダーを利用」とした。これらの機種でも、手動で設定を行うことにより独自ドメイン用にDNSを運用できる場合もあるが、メーカー保証外となる場合もあるため手動設定を行う際にはメーカーに確認してほしい。



時接続への移行を考えている場合には、インターネットサーバーと同様にNATやIPマスカレードなどのファイアウォール機能が魅力的だ。LAN上でファイアウォールとして利用する場合には、インフォエスの「iStation」のようにネットワークインターフェイスが複数装備されている必要がある。

・部門サーバー

部門内のサーバーとして利用する場合は、既存のネットワーク環境との整合性が重視され、さらにDHCPの有無がポイントとなってくる。イントラネットの場合と同様に、すでにDHCPサーバーが導入されている場合にはDHCPクライアント機能を、導入されていない場合はDHCPサーバー機能をサポートしている製品をそれぞれ選ぼう。部門サーバーは直接外部のネットワークと接続されることがないので、WANインターフェイスやファイアウォール機能は重視しなくていい。

ソフトフロントの「EasyServer GP-2000」のようにWWWブラウザを利用したスケジューリング管理や掲示板などを組み込んだ機種があるので、これらを利用することでネットワーク

の付加価値を上げられるだろう。さらに、ホイッスルコミュニケーションズ社の「InterJet」のように、クライアントマシン用にウィンドウズとマックに対応したファイルサーバー機能があると重宝するが、利用するユーザー数に応じたハードディスクの容量が確保できるかどうかは確認しておきたい。

WWWサーバーはすべての機種でサポートしているが、コンテンツ(ホームページ)の作成方法、サーバーへの公開方法、CGIのサポートにばらつきがある。公開する目的や現在の環境に合ったサービスを利用できるかどうかをチェックしておこう。中にはコバルトネットワーク社の「CobaltQube」のように、あらかじめホームページのテンプレートが用意されている機種もあり、これを利用すればサーバーの導入と同時にホームページまで作成できる。

電子メールサーバーとして利用する場合は、ホイッスルコミュニケーションズ社の「InterJet」やフリーゲート社の「OneGate 150」のように、「メーリングリスト」と呼ばれる複数メンバー宛用のメールアドレス機能が付いた機種を選ぶと便利だ。いちいち複数のメールアドレスを入力する必要がなくなる。この機能は個別のプ

ロジェクトごとにメーリングリストを作成することが難しかった部門サーバー分野で非常に有効だ。



設定の簡単さ

実際に導入する際に、最初に必要となるのはネットワークレベルの設定(IPアドレスやDNSの設定など)だ。インターネットサーバーでは、この設定が簡単にしかも誤りなく行えることが求められる。たとえば、プロバイダ別に設定方法が明示されているものを選んだり、ユーザーがサーバーをすぐ使えるようにメーカー側ですべての設定をしてから導入してくれるようなサポートを利用したりすれば、ユーザー側の負担を大幅に減らすことができる。イントラネットサーバーや部門サーバーの場合には、決められたルールに従ったネットワーク設定が必要となる。このためDHCPサーバーの有無が判断ポイントとなる。すでにDHCPサーバーが導入されている場合は、DHCPクライアントがサポートされている機種を選べば問題はない。もし、手動でネットワーク設定を行わ

	コンテンツ作成	MAIL (SMTP, POP3, IMAP4)	ファイル共有	ネットワークセキュリティ	アプリケーション	サポートメニュー	適応分野	コメント
	テンプレート	メーリングリスト、容量制限	Win, Mac	なし	なし	なし (販売代理店ごとに異なる)	イントラネット 部門サーバー	導入からファイル共有まで手軽に行え、イントラネットや部門サーバーにおすすめ。
	テンプレート、ミラー	メーリングリスト、容量制限	Win, Mac	NAT、IPマスカレード、IPフィルタリング、IPポートフィルタリング	なし	プロバイダー設定 (24桁番号での自動設定)	インターネット	OCNエコノミーやDDIスタンダードと同時に導入すると、自動環境設定によりさらに簡単に導入できる。
	ミラー	スパムメール対策	Win	NAT、IPマスカレード、IPフィルタリング、IPポートフィルタリング	なし	なし (販売代理店ごとに異なる)	イントラネット インターネット	URLフィルタリングやスパムメール対策もサポート。セキュリティ機能が充実している。
	なし	メーリングリスト、容量制限	なし	NAT、セキュリティ設定(4段階)	なし	プロバイダー設定 (リモート設定)	インターネット イントラネット	サポートメニュー(有料)を利用すると導入と運用がより簡単になる。
	テンプレート	メーリングリスト、容量制限	なし	なし	なし	なし (販売代理店ごとに異なる)	イントラネット	規模の大きなイントラネットやホスティングサービスを提供するプロバイダーなどでの本格的な利用を想定している。
	なし	POP3のみ	なし	TCPセキュリティ、ルーターの機能に対応	スケジューラー、掲示板、会議室	プロバイダー設定(紙)運用サポート	インターネット 部門サーバー	スケジューラーや電子会議室などのアプリケーションは、別途ユーザー設定が必要なのが残念。
	作成サービス付き	スパムメール対策	Win	NAT、IPフィルタリング、ワンタイムパスワード、IPポートフィルタリング	なし	プロバイダー設定 (設定済みで出荷)	インターネット	WWWサーバー、電子メールサーバー、ネットワークなどが設定された状態で納入されるので大変便利。



なければならぬ場合には、マニュアルを頼りに設定する必要があるため、多少費用はかかってもメーカーにサポートが依頼できるとよい。

Point
3

運用のしやすさ

Thin サーバーを導入する目的の1つは運用コストの低減だ。このため、サーバーの運用のしやすさは重要なチェックポイントとなる。必要最低限のことは誰もができるようにしてい

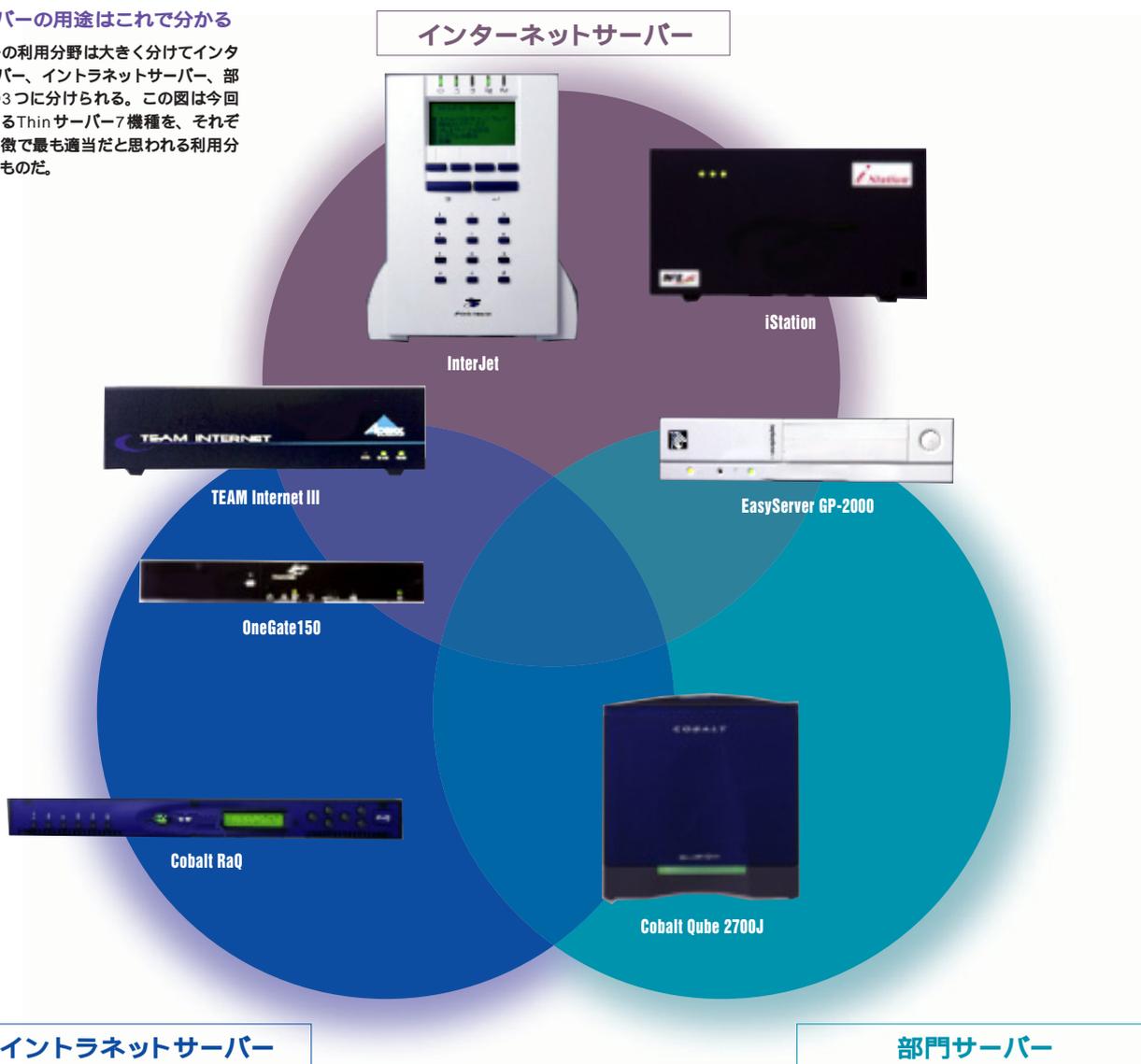
ることはもちろんだが、メーカーのサポートメニューにも注目したい。初期導入時のネットワーク設定や日々の運用時にも電話などで問い合わせられると安心だ。特に、ネットワークレベルでのトラブルは厄介なため、メーカー側のサポート力に期待せざるをえない。本体価格にはこれらのサービス費用が含まれている製品もあり、導入価格としては高く見えるが、サポートの内容とクオリティーによっては非常にメリットがあるだろう。

サーバーの運用ではユーザーの追加と削除、

不測の事態に備えてのバックアップ、さらにはシステムの状態の監視などをどれだけ簡単にできるのがポイントとなる。これらの操作はWWWブラウザでできるようになっているが米国製のサーバーの場合にはメニューやマニュアルなどが日本語化されていない製品もある。英語で構わないユーザー以外は避けたほうがいいだろう。運用時のトラブル解決では、メーカーのサポートが重要な助け舟となるので、特に初心者にはサポートの期待できる製品を選択しよう。

Thinサーバーの用途はこれで分かる

Thinサーバーの利用分野は大きく分けてインターネットサーバー、イントラネットサーバー、部門サーバーの3つに分けられる。この図は今回取り上げているThinサーバー7機種を、それぞれの機能や特徴で最も適当と思われる利用分野に分類したものだ。



Product Showcase



最新Thinサーバー7機種

今回取り上げた7つのThinサーバーにはそれぞれ優れた特徴がある。これまで紹介してきたいくつかのチェックポイントの中から、自分のニーズに合った機能やサービス、価格を決めたいうえで、ここで紹介するThinサーバーの機能をしっかりとチェックし、自分の環境に合った製品を選び出してほしい。

部門サーバーに最適な低価格モデル

CobaltQube 2700J



価格	: 248,000円
HDD	: 2.1Gバイト
メモリー	: 16Mバイト
サイズ	: 184 x 184 x 197mm
LAN	: 10BASE-T x 1ポート
WAN	: なし
WWW	: CGI(Perl)機能付き
管理	: バックアップ(全体、ユーザーごと)(電子メール、WWW、共有ファイル) アクティブモニター(CPU、メモリー、ディスク、ネットワーク、サーバー状況)(WWW、電子メール、ファイルサービス、DNS))
販売元	: アダムネット株式会社(TEL 03-5802-2216) NTTインターナショナル株式会社(TEL 03-5956-9603) 日商エレクトロニクス株式会社(TEL 03-3544-8396) 日本テレマティーク株式会社(TEL 03-5351-1613) ぶらっとホーム株式会社(TEL 03-3251-2600)
URL	: http://www.pc-net.nissho-ele.co.jp/

米国コバルトネットワーク社が開発したCobaltQubeは、NATやIPフィルターといったファイアウォール機能を搭載しておらず(次期バージョンではサポートが予定されている)、また初期設定のままではホームページを公開にすることが難しいため、ネットワークやOSの知識があるユーザー以外はイントラネットもしくは部門サーバーとして用いるのがよい。

オプションで6.4Gバイトのハードディスク容量のモデルも提供されており、ウィンドウズとマックでファイルを共有できるので、部門内での情報共有に利用すると特に威力を発揮するだろう。

OSにLinuxを採用してコンパイラーも提供されているため、プログラマーたちがユーザーグループなどを通じてCobaltQubeの機能を拡張している。このようなパワーユーザーの存在はサポートの面で非常に心強く、また、使い込まれることでシステムの安定性も増すだろう。

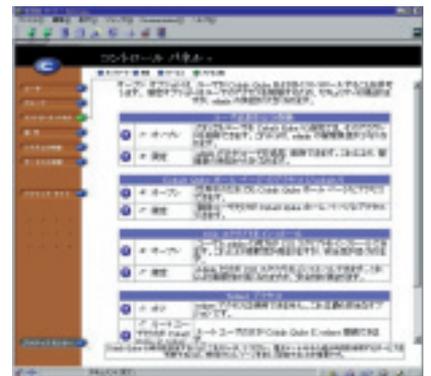
イントラネットもしくは部門サーバーとして導

入するのは非常に簡単だ。すでにDHCPサーバーがある環境であれば、電源ケーブルとネットワークケーブルだけを接続して起動すればネットワークのセットアップは終わってしまう。利用者を登録して共有用にワークグループ名を設定してしまえば、電子メールからWWW、さらにはファイル共有機能まで簡単に利用で

きてしまう。このように、見た目とは異なり、システム内部は非常にオーソドックスに設計されており、WWWブラウザでユーザー管理からシステムの状態監視、バックアップまで行うことができる。特に電子メールのデータとウェブコンテンツ、共有ファイルは個人ごとにバックアップができて便利だ。



アクティブモニター機能を利用すると、システムやサービスの状態が一目で分かる。



管理者はCobaltQubeへのアクセス権を設定できる。インターネットからアクセスされる場合には、これらのアクセス権を制限することでセキュリティを高められる。



3系統のネットワークへのゲートウェイ機能で安全性が高い

InterJet



価格	: オープンプライス
HDD	: 2Gバイト(ユーザーが使用できる領域は約1.3Gバイト)
メモリー	: 16Mバイト
サイズ(W×D×H)	: 170×318×216mm
LAN	: 10BASE-T×2
WAN	: シリアル接続
接続タイプの選択	: (常時、オンデマンド、時間指定、手動)
セキュリティー機能	: NAT、ファイアウォール機能、2系統のLAN(公開用と社内用)
導入時設定	: 24桁のIDをフロントのテンキーから入力
販売元	: NTT(TEL 03-5200-4333) 株式会社リコー(TEL 0120-000475)
URL	: http://debut.mmsys.mabikai.mbc.ntt.co.jp/ http://www.ricoh.co.jp/interjet/

Product Showcase

米国ホイッスルコミュニケーションズ社のInterJetは、Thinサーバーの草分け的存在と言える。国内ではNTTやリコーなどがOCNエコノミーとDDIスタンダードのインターネット接続サービスと組み合わせて販売している。そのためInterJetは、あらかじめプロバイダーに合わせた設定が準備されていて、納入時に知らされる24桁の番号(および必要であればアクセスポイントの電話番号)を、フロントパネルから入力するだけでプロバイダーの設定が終了できるのでインターネット接続用として最適だ。また、起動時から設定操作や各種警告を音声で知らせてくれるので分かりやすい。

インターネットへはシリアルケーブルでモデムやTA(ISDN、デジタル専用線)と接続するためネットワークの利用状況に応じて回線容量をアップグレードできる。アクセスの少ないSOHO環境では通信費を低減できるし、高価なルーターなどを初めから揃える必要がないのがありがたい。

InterJetはインターネットへの接続に加え

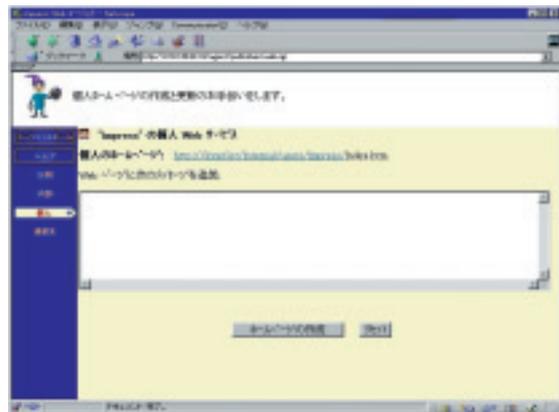
て、インターネット公開用LANと社内向けLANの3系統のネットワークへのゲートウェイ機能を提供している。そのためセキュリティーへの配慮からCGIが利用できない。

InterJetはファイアウォールと電子メールサーバーとして利用し、公開用のWWWサーバーはインターネット公開LANに別途構築するのがよい。もちろん社内向けLAN側はあらかじめNAT機能でインターネット側から隠されているために不正アクセスが防止されている。

最後に、付属のネットワークケーブルをつなぎ間違えないように公開用LAN向けと社内LAN向けに色分けされているのは、ちょっとしたことだが気が利いている。



InterJetの管理メイン画面。それぞれの管理対象はエージェントと呼ばれる。



テンプレートを使うことで個人のウェブコンテンツも作成できる。



アプリケーションレベルのセキュリティが充実

TEAM Internet



価格	: 414,000円-
HDD	: 2.1Gバイト
メモリー	: 16Mバイト
サイズ(WxDxH)	: 343 x 292 x 95mm
LAN	: 10/100BASE-TX x 1ポート 10BASE-T x 1ポート(WAN I/Fとの選択)
WAN	: 別モデル(33.6K - ISDN 128K)
WWW	: ミラー機能
セキュリティ	: スпамフィルター機能、URLフィルタリング、IPフィルタリング、NAT
サポート	: 初期設定サービス(10,000円) リモートサポート(40,000円/年間)
販売元	: 株式会社モリスワ(TEL 06-6649-2023)
URL	: http://www.morisawa.co.jp/

米国エイベックス・テクノロジー社のTEAM Internet には、ダイヤルアップ接続タイプとケーブルテレビ網まで対応できる専用線接続タイプの2種類がある。特徴としては、なんとと言ってもURLフィルタリングやスパムメールの防止といったアプリケーションレベルでのセキュリティ機能が充実していることだ。

URLフィルタリングは、ポルノやギャンブルなどを扱う好ましくないサイトや不適切なサイトのURLへのアクセスを規制することができる。30カテゴリーにあらかじめ登録された50万以上の規制サイトのデータベースをもとに、これらのサイトへのアクセスを規制できる。特に教育機関などでインターネットに接続する際にも、安心して開放させられるし、イントラネットでのゲートウェイサーバーとしても魅力的だ。もちろん、どのカテゴリーに属するサイトを規制するのは管理者の自由なので、利用者に応じた個別の規制ができる。

また、スパムフィルター機能を使うことで、匿名で送られてくるダイレクトメールも規制で

きる。もちろん、NATやIPフィルタリングなどのネットワークレベルでのセキュリティにも対応しているので、より高い安全性を保てる。TEAM Internet の導入の際に初期設定サービス(10,000円)を利用すると、接続に必要なすべての設定をしてくれる。ユーザーは電源を入れるだけでいいのだ。

もし、すでにプロバイダーのホスティングサービスを利用してWWWサーバーを公開しているのであれば、TEAM Internet のウェブミラー機能を使うことで、コンテンツのアップデートが簡単になる。たとえば、社内で作成したコンテンツをTEAM Internet 上でチェックする。問題がなければミラー機能を使ってまったく同じコンテンツをプロバイダー側の公開サーバーに登録できる。

コンテンツを更新する作業は面倒なことが多いが、このミラー機能

を利用すれば作業を特別に意識することなく常に最新のコンテンツを公開できる。InterJetは、公開用のWWWサーバーを構築したいインターネット接続にも最適だ。



TEAM Internet の初期管理画面。各種の設定やシステムの状態のモニタリングができる。



4年間のベーシックサポートで管理者いらず

OneGate 150



ファイアウォールで4つのセキュリティレベルが選択できるので、詳しい知識がなくてもファイアウォール機能が利用できる。



OneGate 150はプロバイダ設定時にあらかじめ用意された設定情報を公衆回線経由でダウンロードするだけでOK。インターネット接続用として手間いらずに利用できる。

また、OneGate150では、ベーシックサポートメニューの利用も検討してみるのもいいだろう。このメニューでは、導入時に必要なセットアップ、日々の運用時に質問に答えてくれる

価格	: 680,000円
HDD	: 2.1Gバイト
メモリー	: 16Mバイト
サイズ	: 305 x 223 x 60mm
LAN	: 10/10BASE-TX x 1
WAN	: ISDN/デジタル専用線
セキュリティ	: NAT、4レベルのプリセットセキュリティ
サポート	: 有料(400,000円/4年) 導入時セットアップ、ヘルプデスク、ハードウェア保守(ネットワーク再設定済み)、ソフトウェアアップグレード
販売元	: ネットワンシステムズ株式会社(TEL 0120-880914)
URL	: http://www.freegate.gr.jp/

ヘルプデスク、さらにハードウェア障害の場合にはネットワーク設定が再設定済みで交換されるサービスなどが提供される。サポート期間が4年間と長いので、サポート費用も440,000円と高額に思えるが、1日あたりでは300円弱とコーヒー1杯分程度のコストなのだ。

実際にどの程度のサポートが得られるかはメーカーのサポート力次第のため、判断は難しい。導入を考える場合にはメーカーの担当者と直接話をして、サポートの内容を確かめることをおすすめしたい。

マルチドメインに対応したプロバイダ向けモデル

CobaltRaQ



CobaltRaQは規模の大きなイントラネットや、ホスティングサービスを提供するプロバイダなどでの本格的な利用も想定している。特に、すでに社内に複数のWWWサーバーが存在しているような規模の大きなイントラネットで、サーバーを集約したい場合に適している。

通常は1つのサーバー機で、1つのドメイン向けのWWWサーバーや電子メールサーバーを提供する。しかし、複数のドメインのサーバー

を管理する場合には、サーバー機の台数が増えることを避けるために、マルチドメインと呼ばれる技術を使って1つのサーバー機で複数のドメインをサポートする必要がある。

CobaltRaQと同様に導入は非常に簡単で、DHCPサーバーさえセットアップしておけば、すぐに起動できる。また、それぞれの仮想サイトごとに個別の管理者を割り当てることもできるので、管理するサイトの数が増えても管理者の負担が増大することは避けられる。

価格	: 278,000円
HDD	: 3.2Gバイト
メモリー	: 16Mバイト
サイズ(W x D x H)	: 432 x 318 x 45mm
LAN	: 10/100BASE-T(自動認識)x 1ポート
WAN	: なし
WWW・電子メール	: マルチドメイン対応
管理	: バックアップ(全体、ユーザーごと(電子メール、WWW、共有ファイル)) アクティブモニター(CPU、メモリー、ディスク、ネットワーク、サーバー状況(WWW、電子メール、ftp、telnet、DNS、SNMP))
販売元	: アダムネット株式会社(TEL 03-5802-2216) NTTインターナショナル株式会社(TEL 03-5956-9603) 日商エレクトロニクス株式会社(TEL 03-3544-8396) 日本テレマティーク株式会社(TEL 03-5351-1613) ぶらっとホーム株式会社(TEL 03-3251-2600)
URL	: http://www.pc-net.nissho-ele.co.jp/

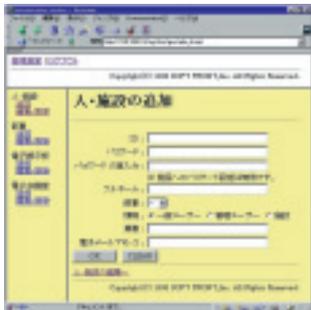


各サイトの管理者はそれぞれのサイトごとにWWWや電子メールなどのサービスの設定を行うことができる。



イントラネットで活用できるアプリケーションが付属

EasyServer GP-2000



EasyServer GP-2000には、スケジューラーや掲示板などのアプリケーションがあらかじめ組み込まれている。



EasyServer GP-2000は、OSにウィンドウズNT4.0を採用したThinサーバーだ。評価した機種ではウィンドウズNT 4.0サービスパック3を利用しており、2000年問題への対応が望まれる。

導入時にEasyServer GP-2000がDHCPのサーバーにもクライアントにもならないため

価格	: 550,000円
HDD	: 2Gバイト
メモリー	: 64Mバイト
サイズ	: 307 × 234 × 67mm
LAN	: 10BASE-T × 1ポート
WAN	: なし(ダイヤルアップルーターを使用)
アプリケーション	: スケジューラー、掲示板、会議室
サポート	: 有料(110,000円/年) 電子メールアカウント追加、FTPアカウント追加、ホームページ公開、アクセス分析、オンラインバックアップ
販売元	: ソフトフロント株式会社(TEL 011-736-8330)
URL	: http://www.softfront.co.jp/

に、設定用のパソコン側でネットワーク設定を変更しなければいけない。そのため導入から運用まで幅広く支援してくれるサポートメニューを使ったほうがよいだろう。

サービスメニューは専門用語が多すぎて難解なため、分かりやすく変更すると利用しやすくなると思われる。EasyServer GP-2000では、スケジューラーや掲示板などのアプリケーションをWWWサーバーに組み込んでいるので、SOHO環境などでは手軽にイントラネットを活用できるだろう。

導入から運用までまったく手間いらず

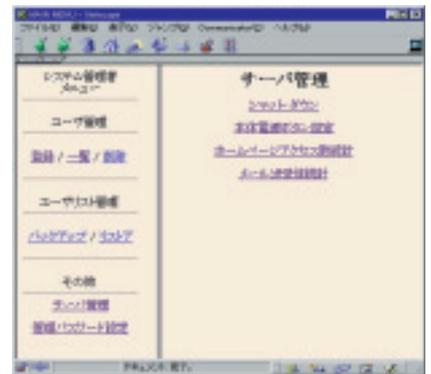
iStation



iStationは、導入時にユーザーがネットワークや各種サーバーの設定を行う必要がまったくない。ネットワークの設定に必要な項目を記入するヒアリングシートは非常に分かりやすく、契約したプロバイダ名と希望する個人用の電子メールアドレスを記入するだけで、プロバイダ設定や各種のサーバーの設定があらかじめ組み込まれてサーバーが送られてくる。さらにはサンプルのホームページを見ながら

質問に回答するだけでオリジナルのホームページまで作成してもらえるので公開用のWWWサーバーを持つためのインターネット接続用に最適だ。まさにサーバーの電源を入れるだけで、すぐにすべてのサービスが利用できる。本体には、イーサネットポートが4ポート内蔵され、接続用のケーブルまで付属している。日々の運用はリモートから監視やメンテナンスを行ってくれるので、ホスティングサービスの利用と同じくらいに手間いらずで運用できる。

価格	: オープンプライス(リモートからの運用保守費用込み)
HDD	: 4.1Gバイト × 2(ミラーリング)
メモリー	: 64Mバイト
サイズ	: 323 × 313 × 185mm
LAN	: 10BASE-T × 4ポート
WAN	: ISDN(DSU内蔵)
サポート	: ヒアリングシートの記入だけで、プロバイダ設定や各種のサーバー設定、オリジナルホームページの作成が行える。
販売元	: 株式会社インフォーエス(TEL 03-5642-8335)
URL	: http://www.in4s.co.jp/



iStationの管理画面。運用管理はリモートで行われるため、ユーザーが行うべきオペレーションは最小限でよい。



Thinサーバー機能一覧表

製品名	Cobalt Qube 2700J	InterJet	TEAM Internet III	OneGate150	CobaltRaQ	EasyServer GP-2000	iStation ³	
開発元	米国コバルトネットワーク社	米国ホイッスルコミュニケーションズ社	米国エイベックステクノロジー社	米国フリーゲート社	米国コバルトネットワーク社	㈱ソフトフロント	㈱インフォーエス	
販売元	アダムネット㈱ NTTインターナショナル㈱ 日商エレクトロニクス㈱ 日本テレマティーク㈱ ぶらっとホーム㈱	NTT ㈱リコー	㈱モリスワ	ネットワシシステムズ㈱	アダムネット㈱ NTTインターナショナル㈱ 日商エレクトロニクス㈱ 日本テレマティーク㈱ ぶらっとホーム㈱	㈱ソフトフロント	ソフトバンク㈱	
問い合わせ先	P259参照	P260参照	06-6649-2023	0120-880914	P262参照	011-736-8330	03-5642-8335	
URL	http://www.pc-net.nissho-ele.co.jp/	http://www.ricoh.co.jp/interjet/	http://www.morisawa.co.jp/	http://www.freegate.gr.jp/	http://www.pc-net.nissho-ele.co.jp/	http://www.softfront.co.jp/	http://www.in4s.co.jp/	
価格	248,000円	オープンブライズ	414,000円より	680,000円	278,000円	550,000円	オープンブライズ	
CPU	MIPS R4650 RISCコントローラ	-	-	Intel486DX	MIPS R4650 RISCコントローラ	Pentium 133MHz以上	IDT WinChip C6	
クロック数	150MHz	-	-	133MHz	150MHz		200MHz	
メモリー容量	16MB	16MB	16MB	16MB	16MB(最大256MB)	64MB	64MB(最大768MB)	
ハードディスク容量	3.2GB	2GB	2.1GB	2.1GB	3.2GB	2GB	4.1GB x 2台(ミラーリング)	
UPS(無停電電源装置)	x		x		x	x		
サイズ(HxDxH[mm])	184 x 184 x 197	170 x 318 x 216	343 x 292 x 95	305 x 223 x 60	432 x 318 x 45	307 x 234 x 67	323 x 313 x 185	
インターフェイス	WAN	x	シリアル接続 IP接続	33.6Kモデム ² ISDN 128K	ISDN/デジタル専用線	x	x	ISDN(DSU内蔵) HSD 64K/128K
	LAN	10BASE-T x 1	10BASE-T x 2	10 BASE-T/2 10/100BASE-TX x 1	10/100BASE-TX x 1	10/100BASE-TX x 1	10BASE-T x 1	10BASE-T x 4
	リモートメンテナンス用	x	x	x	x	シリアル接続	x	x
ソフトウェア	OS	Linux 2.0	独自OS(ブラウザ方式)	Linux 2.0	PC UNIX ベース	Linux 2.0	ウィンドウズNT 4.0	Linux 2.0.36
	DNS							
	E-MAIL (POP/IMAP)	SMTP POP3、IMAP4	SMTP POP3、IMAP4	SMTP POP3、IMAP4	SMTP POP3、APOP	SMTP POP3、IMAP4	SMTP POP3	SMTP POP3
	WWW	Apache 1.2	Apache(デュアルWWW)	Apache 1.2	Apache 1.2	Apache 1.2	Web.FRONT	Apache 1.3.3
	CGI/SSI	CGI	1	CGI/SSI	CGI	CGI	CGI	CGI
	FTP							
	ファイル共有	Win、Mac	Win、Mac	Win	Win	Win、Mac	x	Win
	DHCP (サーバ/クライアント)	クライアント	サーバ	サーバ/クライアント	サーバ	クライアント	サーバ	サーバ
	プロキシー	x				x	x	
	アプリケーション	x	x	x	x	x	スケジューラ、電子会議室、 電子掲示板	x
その他	-	-	-	-	-	-	(Cat試用版 50ユーザー/1か月間)	
セキュリティ	NAT	x				x	(ルーターの機能)	
	IPマスカレード	x				x	(ルーターの機能)	
	IPフィルタリング	x				x	(ルーターの機能)	
	IPポートフィルタリング	x				x	(ルーターの機能)	
	SPAMフィルタリング	x	x			x	x	
	VPN	x	x		オプション	x	x	
	その他	-	-	-	セキュリティ-設定(4段階)	-	TCPセキュリティ	ワンタイムパスワード
サポートメニュー	導入時サポート	発売元により異なる	発売元により異なる	初期設定サービス (10,000円)	400,000円/4年(導入、 運用、保守サポートを含む) 導入時のインストールと 環境設定	発売元により異なる		導入時のインストールと 環境設定
	運用サポート	発売元により異なる	発売元により異なる		ヘルプデスクサービス	発売元により異なる	メールアドレス追加サービス、 FTPアカウント追加サービス、 ホームページ公開サービス他	管理センターで 各種設定変更、 ホームページ更新サービス
	保守サポート	発売元により異なる	発売元により異なる	リモートサポート (40,000円/1年間)	障害時のハードウェア交換 ソフトウェアのアップデート	発売元により異なる	オンラインメンテナンス サービス、オンラインバック アップサービス他	リプレース保守、年1回 のセンドバックでの 定期検診とハードウェア メンテナンス

1 10BASE-T x 2あるいは10/100BASE-TXを搭載した専用線モデルもあります。

2 アクセスカウンターとリプライフォーム用のCGIがあらかじめ用意されています。

3 CPUにAMD K6-2 350MHzを搭載し、メモリー、ハードディスクを増設したBusiness Solution Packもあります。



ファイアーウォールかプロキシ機能を持ったThinサーバー

ThinサーバーはDNSやWWWや電子メールといったインターネットサービスを提供する製品だけでなく、別な用途に利用される製品もある。たとえば、ファイアーウォール機能やプロキシサーバー、ファイルサーバーなどに絞った製品だ。ここでは、ファイアーウォール機能に絞った3つの製品を紹介しよう。

SonicWALL

インターフェイス : 10BASE-T x 2ポート
 販売元 : 住友金属システム開発株式会社
 価格 : 300,000円より
 問い合わせ先 : 03-5476-9825
 URL : <http://www.smisoft.ssd.co.jp/>

SonicWALLは、インターネット側のルーターと内部LANの間に設置することで、ファイアーウォールとして機能する。その際にSonicWALLはゲートウェイとして機能するわけではないので、内部LAN側のIPアドレスを変更したり、アプリケーションで設定を変更したりする必要はない。インターネットからは特別に許可をしない限り、内部LANに入ることはできなくなる。もちろん、内部LANからはインターネットへ自由にアクセスできるので、利用者がSonicWALLの存在を特に意識することはない。ただし、不適切なコンテンツへのアクセスは制限されることがある。というのも、SonicWALLには、コンテンツフィルタ機能が搭載されているので、管理者が好ましくないと思うコンテンツへのアクセスを規制できる。管理者は、マイクロシステムズ・ソフトウェア社の提供するCyberNOTリストに掲載されている規制サイトのリストからアクセスを制限したい分野を選択するだけでよい。



B5サイズという小さな筐体にファイアーウォール機能とコンテンツフィルタ機能が詰め込まれている。

NetScreen-10

インターフェイス : 10BASE-T x 3ポート
 販売元 : 日立西武ソフトウェア株式会社
 価格 : 798,000円
 問い合わせ先 : 03-5753-0167
 URL : <http://www.hitachi-ns.co.jp/pro/netscreen/>

NetScreenはファイアーウォール機能だけでなく、トラフィックマネジメント機能を強化した製品だ。インターネットから内部LANへのアクセス制限だけでなく、トラフィックシェーピング機能が提供され、中規模以上のサイトでのネットワークリソースには有効だ。トラフィックシェーピングとは、WWWや電子メール、ファイル転送(ftp)などをサービスごとに使用できるネットワーク量(帯域)を規制する機能。この機能を利用することで、ftpのように通常は帯域を占有しやすいサービスの優先度を下げ、効率のよいネットワーク利用を可能にする。また、NetScreen-100(1,980,000円)に搭載されているロードバランス機能は、複数のサーバーを1つのサーバーに見せかけるための機能で、クライアントからのアクセスが集中してしまうプロバイダーや人気サイトなどでは、この機能を利用することより、負荷の少ないサーバーに処理を割り振ることができ、それぞれのサーバーの能力をフルに活用させられる。



コマンドラインでの直接設定のほか、WWWブラウザを使った遠隔地からの操作もできる。

FortKnox

インターフェイス : 10/100BASE-TX x 3(最大)
 販売元 : インターネット・デバイス・ジャパン株式会社
 価格 : 360,000円より
 問い合わせ先 : 03-3491-3801
 URL : <http://www.nti.co.jp/fortknox/>

FortKnoxはインターネット側のルーターと内部LANの間に設置する。FortKnoxでは、独自のシングルIPアドレス(SIPA)技術により、既存のネットワークに接続されている機器の設定を変更する必要がない。ファイアーウォール機能を中心に提供されているが、ネットワーク負荷を軽減させるためにウェブキャッシュ機能も搭載している。この機能はプロキシサーバーと呼ばれる機能と同様に、最近アクセスされたコンテンツの内容を保存しておき、再度そのコンテンツにアクセスされたときには、インターネット経由でアクセスせず、キャッシュに保存されている内容を表示させる。そのため、インターネットアクセスの回数を減らすことができ、ネットワーク負荷を軽減させられる。

FortKnoxのウェブキャッシュ機能を利用するためにユーザーがWWWブラウザの設定を変更する必要はない。管理者がこの機能を有効にするだけで、利用者にウェブキャッシュ機能の存在を意識させることなく利用させられる。



IPSec準拠のVPN、URLブロック、シングルIPアドレス設定機能などがオプションで付属。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp